

クリークを活用した流域治水（先行排水）の取組 佐賀県（佐賀平野、白石平野）

【取組内容】

国営筑後川下流土地改良事業及び県営事業により整備されたクリーク（農業用水路）は、土地改良区等が管理を行っている。これらのクリークは、かんがい期の農業用水確保に加え、大雨時には雨水を一時的に貯留し、平野部においてダムと同様の洪水緩和機能を果たしている。

特に、豪雨が予測される場合には、佐賀県と市町等が連携し、豪雨前にクリークの水位を下げる先行排水を行うことでクリーク内の空き容量を確保し、浸水被害の軽減を図っている。

【取組に至った経緯】

佐賀平野は、地形が低平で排水が滞りやすい特性を有しており、湛水被害を受けやすい地域であった。特に近年、線状降水帯による豪雨が頻発しており、農地や市街地において湛水被害が繰り返し発生している。これら被害を軽減するためには、河川改修等のハード対策に加え、既存のクリークなどを活用し、流域全体でハードとソフトの両面から対策を進める必要がある。

【取り組む際に生じた課題と対応】

先行排水の実施に当たっては、排水のタイミングや放流量の判断が、地元のゲート操作人の経験に依存しているという課題があった。このため、佐賀県では、気象情報や水位状況を関係者と共有し、より効果的かつ効率的な水門操作が行えるよう運用の改善を図っている。

また、先行排水後に想定した降雨がなく、農業用水が不足するおそれがある場合には、佐賀県と市町、土地改良区等が連携し、迅速な用水供給に向けた調整を行うことで、農業への影響がないように努めている。

【取組の成果】

佐賀・白石両平野においては、令和6（2024）年度に、豪雨や台風接近に伴う大雨が予測された際、先行排水を計8回実施した。その結果、先行排水による空き容量として約5,600万 m^3 を確保しており、これは佐賀県北山ダムの有効貯水量（2,200万 m^3 ）のおおむね2.5倍に相当する。

本地域では、豪雨時を想定したクリークの先行排水に継続的に取り組んでおり、市街地及び農地における湛水被害の軽減に寄与している。

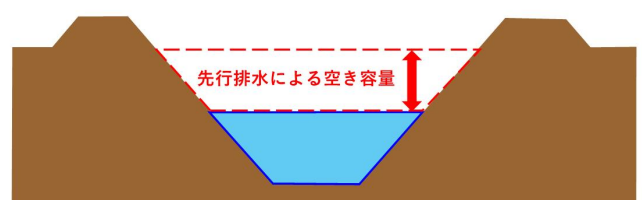
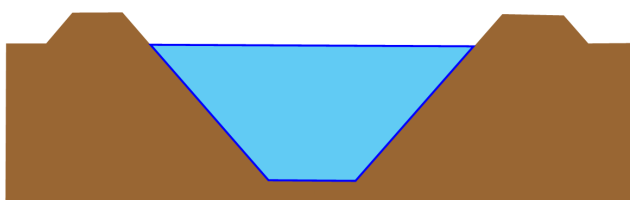
【今後の展開】

クリークの先行排水を円滑かつ確実に実施するため、県、市町、土地改良区等の関係機関による実施体制の整理を進めるとともに、降雨予測や水位状況を踏まえた水門操作方法や判断基準について検討を行い、より効果的・効率的な先行排水とゲート操作を行う管理者の負担軽減を図っていききたい。

通常時の水位



先行排水時の水位



さが 佐賀市の先行排水取組事例（佐賀市川副町）